

生まれてきてくれて、ありがとう

帆花

は の か

9/15 (月/祝)

札幌市教育文化会館 4 階講堂
10 時半/14 時/17 時
各回アフタートークあり



バリアフリー日本語字幕・音声ガイド付き／UDキャスト対応

高校生となった帆花さんの様子と母・理佐さんのインタビューを織り交ぜた短編『9年後の西村家』(2023年5月撮影)も上映します。

監督・撮影：長友勇吾 脚本：田崎実美 編集：長島志 整音：川上西東 音響：SARUKI nakamura プロデューサー：島田隆一 製作：JyaJya Films - an film
配給協力・宣伝：Regard 助成：文化庁文化芸術振興費助成金（映画芸術文化振興事業）独立行政法人日本芸術文化振興会 2023年日本映画（100）プロジェクト

生きていくということ。
それは



我が子の成長を喜び、愛しむ両親の姿とその日々の営みをみつめ、 いのちにふれるドキュメンタリー

生後すぐに「脳死に近い状態」と宣告された帆花ちゃん。母親の理佐さん、父親の秀勝さんと過ごす家族の時間にカメラは寄り添う。常に見守りが必要な帆花ちゃんとの生活は誰にでもできることではない。でも、理佐さんと秀勝さんの二人にとってはあたり前で、普通のこと。いろんな場所に出かけていき、絵本を読み聞かせ、お風呂に入れ、吸引をする…ありふれた親子の日常の中で積み重なり、育まれていくもの。動かなくても、言葉を発しなくても、ふれあうことで通じあい、満ちていくもの。帆花ちゃんを愛しむ両親の姿から伝わる、我が子と一緒にいられる幸せ。

そんな家族のかけがえのない日々、生きる喜びと生命の営みを見出したのは、今作が初監督作品となる國友勇吾。プロデューサーを『春を告げる町』の監督である島田隆一が務め、編集を『ニッポン国VS泉南石綿村』『東京クルド』などの泰岳志、整音を『台湾萬歳』『オキナワ サントス』などの川上拓也が手掛けるなど、現代ドキュメンタリーの精鋭陣がスタッフとして参加している。帆花ちゃんの手のかさりとぬくもりに、生を実感して心が震えたという國友監督が紡ぎ出す、いま、この社会に私たちとともに在る「いのち」の物語。



会場 札幌市教育文化会館 4階講堂(北1条西13丁目)

上映9月15日(月・祝) ① 10:30~12:00 (本編+短編) トーク 12:10~13:00

② 14:00~15:30 トーク 15:40~16:30

③ 17:00~18:30 トーク 18:40~19:30

料金 一般前売1300円 当日1500円 札幌映画サークル会員・全障研会員1000円

前売券取扱は 道新PG・札幌市民交流プラザPG・札幌市教育文化会館PG 予約QRコード

満席の場合は当日券を販売しません。当日支払いで便利なメール・電話予約受付中(前売料金)。

問い合わせ/予約 メール: sapporokinema@yahoo.co.jp 電話: 090-7055-0074 (岩本)

主催/札幌映画サークル 共催/全国障害者問題研究会(全障研) 北海道支部 後援/札幌市(予定)

協賛: 焼鳥じゃんぼ 札幌市中央区南5条西4丁目(中小路東向き) 電話011-531-6451

